

土地改良事業計画概要書
(変更)
県営矢田地区

区画整理（経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」）事業

目 次

第1章 目 的	-----	1	
第2章 地域の所在及び現況	-----	2	
第1節 地 域	-----	2	
第2節 地 積	-----	2	
第3節 現 況	-----	3	
第4節 地域環境の概況	-----	12	13
第3章 基本計画	-----	13	14
第1節 事業計画の要旨	-----	13	14
第2節 営農計画及び土地利用計画	-----	14	15
第3節 用水計画	-----	15	16
第4節 排水計画	-----	18	20
第4章 工事又は管理の要領	-----	21	23
第1節 工事の内容	-----	21	23
第2節 管理の要領	-----	21	23
第5章 換地計画の要領	-----	22	24
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	-----	22	24
第2節 換地区の設定	-----	22	24
第3節 換地計画樹立の基本方針	-----	22	24
第4節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積	-----	23	25
第5節 換地処分の特則	-----	23	25
第6章 費用の概算	-----	24	26
第7章 効 用	-----	25	27
第8章 他の事業との関係	-----	26	28
第9章 計画概要図	-----	27	29

第1章 目的

本地区は、柏崎市の中央部に位置し、水稻を基幹作物とする農業地帯である。

現況の水田区画は10a程度であり、農道も狭小で大型機械導入が難しく、効率的な営農の妨げとなっている。また、用水路はパイプラインで整備されているが、老朽化が著しく用水管理や維持管理に苦慮している。

そのため、本事業を契機に、大型機械体系による農業経営の構築と共に、担い手への農地集積・集約を加速化し、一層の生産コスト縮減を図り、土地利用型農業の確立による経営の安定と競争力の強化を図る。

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地域

事業名	地域
区画整理	新潟県柏崎市大字矢田、与三、吉井

第2節 地積

(令和8年3月現在)
(令和3年8月現在)

事業名	現況地目	田	畑	原野	山林	その他	計	備考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	柏崎市	52.5 52.3	0.1	—	—	7.2 8.2	59.8 60.6	
	計	52.5 52.3	0.1	—	—	7.2 8.2	59.8 60.6	
合 計		52.5 52.3	0.1	—	—	7.2 8.2	59.8 60.6	

第3節 現 況

1. 気象

(1) 一般気象

観測所名	柏崎観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	備考欄参照	5月～9月	10月～4月		
平 均 気 温 (℃)		21.6	7.7	13.5	平均気温 出典：気象庁HP（柏崎観測所）1991～2020
降 水 量	平 均 (mm)	164.0	227.3	200.9	期間内月平均値 出典：気象庁HP（柏崎観測所）1991～2020
	基準年 (mm)	133.0	202.0	173.3	1974年 出典：水文統計資料第13版（H26.3）1953～2012
降水日数	平 均 (日)	12.1	19.6	16.5	期間内月平均値 出典：気象庁HP（柏崎観測所）1991～2020
	基準年(日)	—	—	15.0	1974年 出典：水文統計資料第13版（H26.3）1953～2012
根 雪 期 間		12月2日～ 3月21日		111日間	出典：気象庁HP（柏崎観測所）1991～2020
無 霜 期 間		4月1日～11月26日		240日間	出典：気象庁HP（新潟）1991～2020
最 多 風 向		南南東	最大風速 (風 向)	16.0m/s (南南東)	最多風向発生時期 2～5, 7～12月 最大風速発生年月日 2006年4月11日 出典：気象庁HP（柏崎観測所）1991～2020

(2) 特殊気象

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
柏崎観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
備考欄参照																
最大日雨量 (mm)	256.0	2005. 6.28	—	141.0	1984. 8.30	—	137.5	2017. 7.3	—	123.0	1978. 6.26	—	121.0	2004. 10.20	—	出典：気象 庁HP（柏崎 観測所） 1976～2021
最大連続雨量 (mm)	759.0	1961年 50日間	—	678.1	1956年 34日間	—	633.0	1971年 27日間	—	580.0	1980年 29日間	—	543.0	1970年 24日間	—	出典：水文 統計資料第 13版 (H26.3) 1953～2012
最大連続干天日数 (日)	134	1977年	—	129	1978年	—	112	1976年	—	60	1953年	—	55	1994年	—	出典：水文 統計資料第 13版 (H26.3) 1953～2012

2. 地形、地質及び土壌

(1) 地形

本地区の地形は、最高で^{9.7}37.8m、最低で4.8mとなっており、地形勾配は東から西へ平均^{1/204}1/141の勾配となっている。

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高 (m)		備考
	傾斜区分	1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最 高	最 低	
区画整理	面積 (ha)	—	^{52.5} 50.5	—	—	⁰ 1.9	^{52.5} 52.4	0.1	—	—	—	—	0.1	^{9.7} 37.8	4.8	
	比率 (%)	—	¹⁰⁰ 96.4	—	—	⁰ 3.6	100	100	—	—	—	—	100			
合計	面積 (ha)	—	^{52.5} 50.5	—	—	⁰ 1.9	^{52.5} 52.4	0.1	—	—	—	—	0.1	^{9.7} 37.8	4.8	
	比率 (%)	—	¹⁰⁰ 96.4	—	—	⁰ 3.6	100	100	—	—	—	—	100			

(2) 地質及び土壌

本地区の地質は第四紀沖積土層で、D-31強グライ土壌・強粘土斑鉄型とA-1泥炭土壌 全層泥炭型の土壌である。

3. 水利状況

(1) 用水状況

本地区の用水は、西部の池等の既存ため池、国営用水、反復水を用水源とし、揚水機場から加圧パイプラインにより給水している。
また、用水不足解消のため反復水を西部の池に送水し灌漑している。

(ア) 用水系統

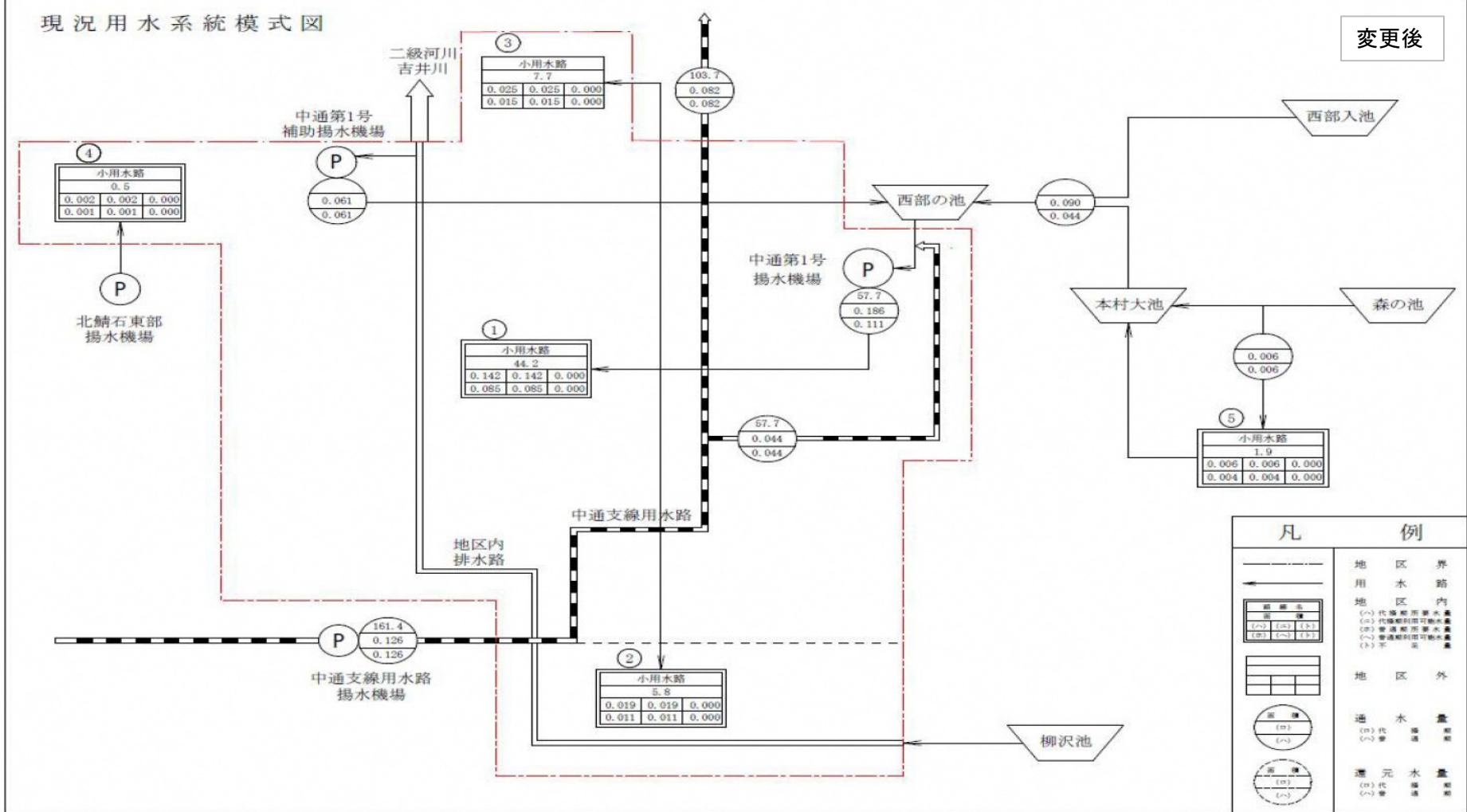
現況用水系統模式図のとおり。

变更前



現況用水系統模式図

変更後



(イ) 取水方法一覧

事業名	項 目 施設名	か ん が い 面 積						計		許可水利権		慣行水利権等		延 べ 取水量	備 考
		500ha以上		500～100ha		100ha未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s	
区 画 整 理	自然取入口	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	揚水機・その他	—	—	—	—	8	58.2 60.1	8	58.2 60.1	2	0.046 0.045	6	0.157 0.111	0.203 0.156	
	計	—	—	—	—	8	58.2 60.1	8	58.2 78.0	2	0.046 0.045	6	0.157 0.111	0.203 0.156	
合 計		—	—	—	—	8	58.2 60.1	8	58.2 78.0	2	0.046 0.045	6	0.157 0.111	0.203 0.156	

(ウ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項 目 施設名	施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
整 区 理 画	用水路	小用水路	52.5 52.3	フリューム 塩ビ管	L=8.3m	S55～59	区画整理による改 修及び廃止	
合 計			52.5 52.3		L=8.3m			

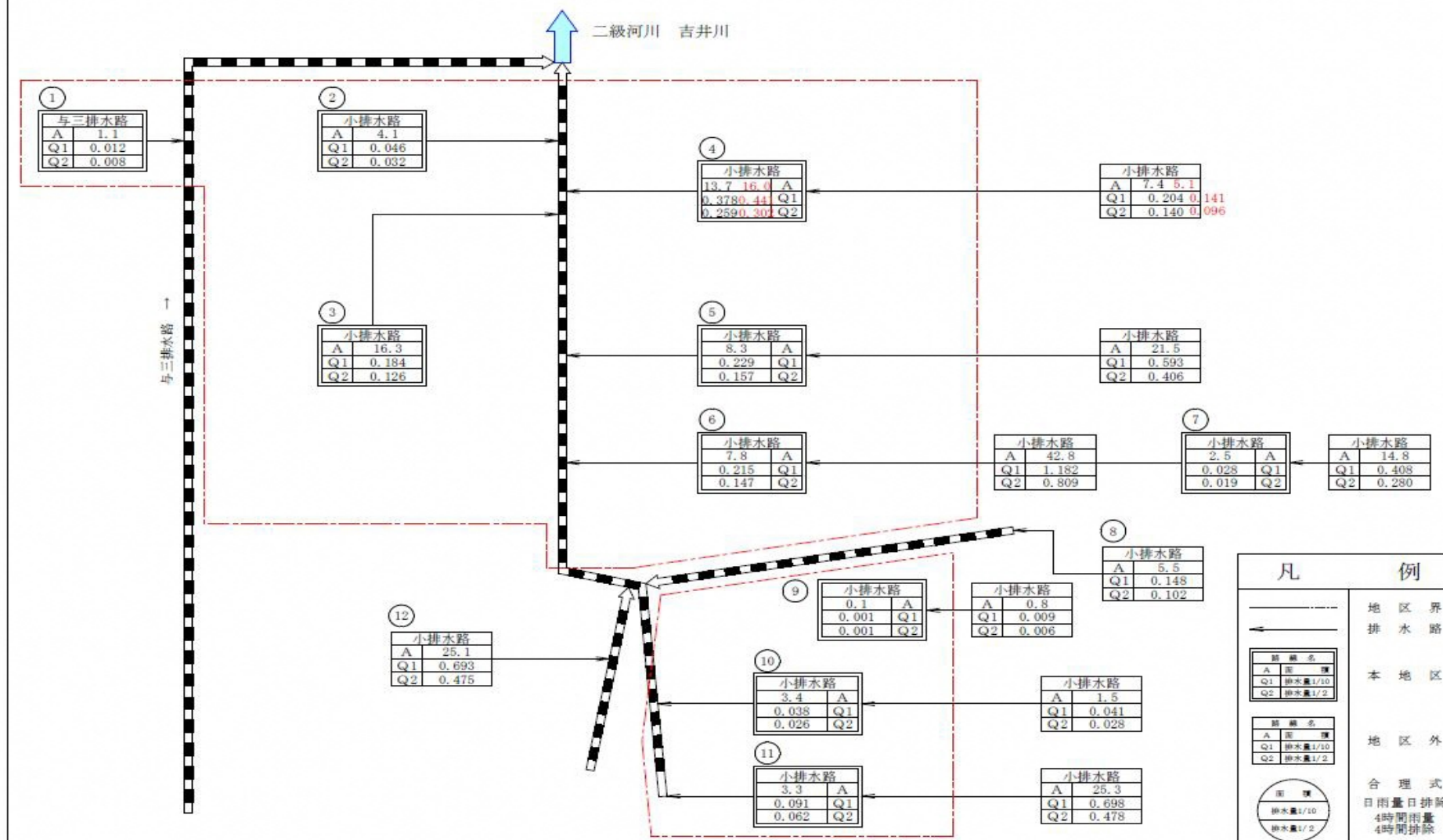
(2) 排水状況

本地区の排水系統は、地区内の小排水路を経て二級河川吉井川へ排水される。

(ア) 排水系統

現況排水系統模式図のとおり。

現況排水系統模式図



(イ) 排水方法一覧

事業名	項 目 施設名		排 水 面 積						計		排水慣行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備 考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満						
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
区 画 整 理	自然	排水路	—	—	—	—	1	205.3	1	205.3	—	5.667	
	機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	計		—	—	—	—	1	205.3	1	205.3	—	5.667	
	合 計		—	—	—	—	1	205.3	1	205.3	—	5.667	

(ウ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項 目		施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
	施設名								
区画整理	自然	排水路	小排水路	52.5 52.4	HF, BF	L=6.5km	S55～59	区画整理による改修及び廃止	
	計			52.5 52.4		L=6.5km			
	合 計			52.5 52.4		L=6.5km			

(3) 河川状況

該当なし

4. 道路概況

本地区の道路状況は、地区中央を主要地方道 鯨波宮川線が南北に縦断しており周辺には集落が形成されている。主要地方道を基幹道路として市道が接続しており、市道より耕作道路を利用し耕作が行われている。

5. 営農状況

平成19年に地区内の認定農業者が代表となり矢田営農組合が設立され、この組合が中心となり、水稻を主体とした経営の合理化と集落ぐるみで生産振興に取り組んでいる。

第4節 地域環境の概況

1 植物・動物等生態系の概況

令和2年5月29日に、『生きもの調査』が実施された。用水路はパイプラインで排水路のほとんどがコンクリート二次製品水路であるため、生き物の棲家は限定された箇所であるが、地区にはビオトープがあり、動植物の生息環境が残っている。

2 その他、地域環境の概況

本地区は、柏崎市農村環境計画において『しぜん・歴史文化共存エリア』の『里山・中山間農業ゾーン』としてゾーニングされており、河川や山林と連携した農地環境の保全を目指す区域である。あわせて農村の歴史文化継承、生態系の保全、里山環境の保全を図っていくことが求められている。

第3章 基本計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本計画は、農地中間管理機構関連農地整備事業により49.4haの耕地の汎用化を図り、労働生産性の向上を目指す。また、農地利用集積率の向上、大型機械化省力化稲作を確立し、集積・集団化等促進基盤整備計画の実現を図る。

区画は将来の営農体系等を勘案して、平野部は1ha区画(長辺140m×短辺72m)、山側は20a区画(長辺55m×短辺40m)を基本とし整備を行う。道路計画は支線道路として全幅6.0m(有効幅員5.0m)の敷砂利舗装を基本とする。用水計画は、水の有効利用及び水管理の合理化を図るために、自然圧パイプラインかんがい方式とする。排水計画は地区外流入がなく、ほ場内排水のみの区域は管水路とし、地区外流域から排水が流入する路線は開水路とする。

また、耕地の汎用化を図ることから、暗渠排水を計画する。

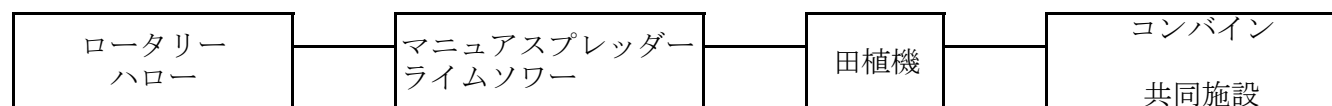
2. 事業別面積

事業名 土地 利用区分 事業目的	区画整理						計	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	道 水 路 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
区画整理	49.7 49.4	—	—	8.6 9.7	1.5 1.5	59.8 60.6	59.8 60.6	
計	49.7 49.4	—	—	8.6 9.7	1.5 1.5	59.8 60.6	59.8 60.6	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

- a) 経営方式 水稻転作複合 水稻＋飼料用米＋加工用米＋野菜（たまねぎ、えだまめ、マコモダケ）
- b) 経営組織 農地の集団化を図り、大型機械の共同利用を進めると共に、土地利用権の集積に努め、農業経営の安定化を図る。
- c) 作業体系（水稻） 耕起整地 → 基肥 → 植付 → 除草防除 → 収穫調製



2. 土地利用区分

事業名	土地利用区分	水田 (ha)	輪換 耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	小計 (ha)	道路 (ha)	水路 (ha)	山林 原野 (ha)	その他 (ha)	合計 (ha)	備考
	区分												
区画整理	現況	52.5 52.3	—	0.1	—	—	52.6 52.4	2.7 3.7	3.0 3.0	—	1.5	59.8 60.6	
	計画	49.7 49.4	—	—	—	—	49.7 49.4	5.6 6.7	3.0 3.0	—	1.5	59.8 60.6	
計	現況	52.5 52.3	—	0.1	—	—	52.6 52.4	2.7 3.7	3.0 3.0	—	1.5	59.8 60.6	
	計画	49.7 49.4	—	—	—	—	49.7 49.4	5.6 6.7	3.0 3.0	—	1.5	59.8 60.6	

3. 環境との調和への配慮

準絶滅危惧種に指定されており保護すべき種であり、観察、捕獲によるモニタリングが可能な「メダカ」、「ドジョウ」を保全対象種として選定した。

現況のビオトープ池を再整備し、水路内の動植物の生息、繁殖空間を確保する計画とした。

第3節 用水計画

1. 計画基準年

基準年：昭和49年

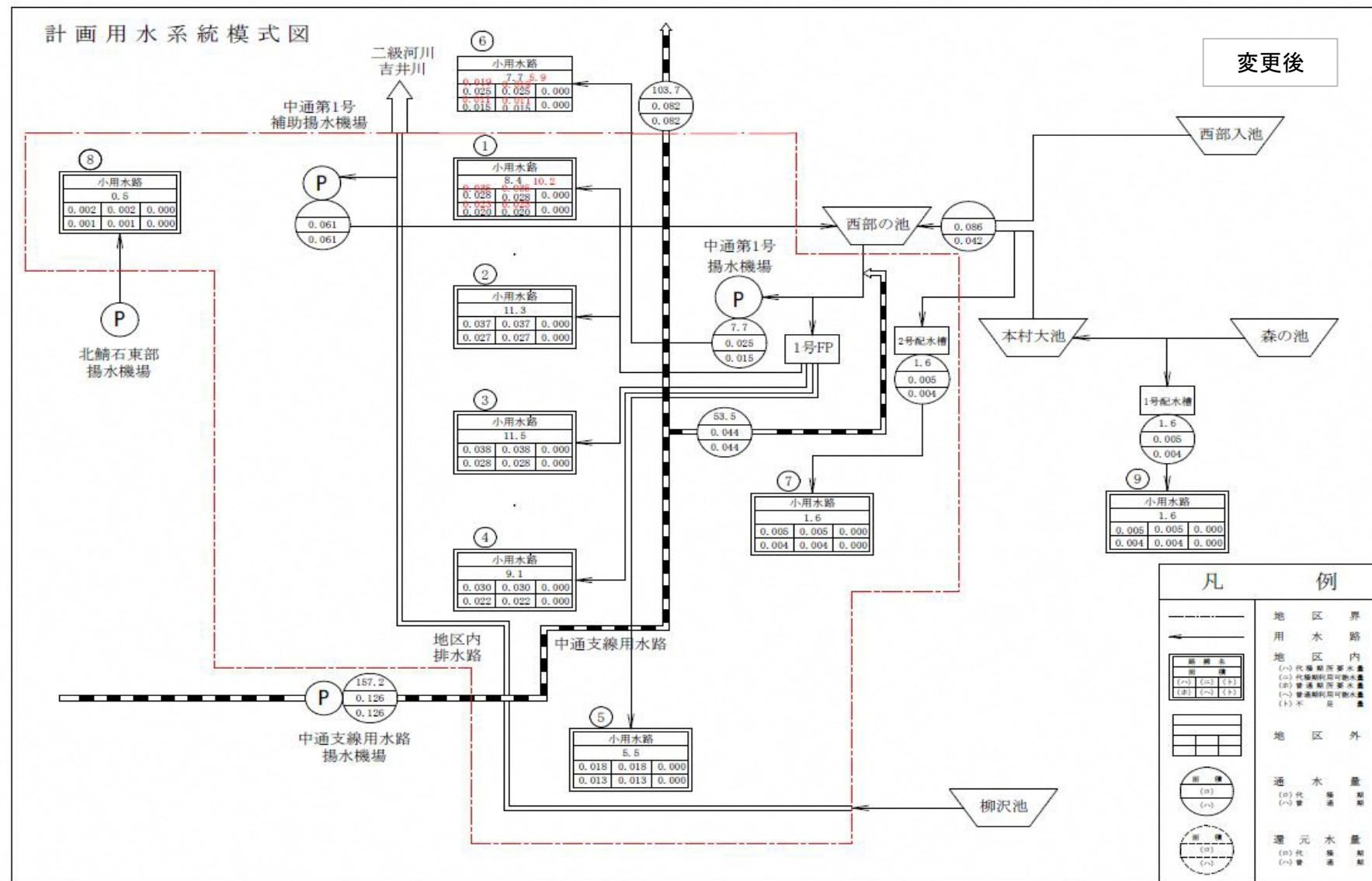
決定理由：国営かんがい排水事業 柏崎周辺地区による。

2. 計画かんがい方式

水 稲：4月21日～8月31日（代掻き4月21日～4月30日）計133日

3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。



4. 計画用水量

系統名 項目	種別	面積 (ha)	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			そ の 他		消費水量 (m^3/s)	損失率 (%)	粗用水量		備 考
			普通期	代かき期	面積 (ha)	平均かん水深 一日当たり計画 ($\text{mm}/\text{日}$)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	平均かん水深 一日当たり計画 ($\text{mm}/\text{日}$)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	単位用水量 計画平均 ($\text{mm}/\text{日}$)	面積 (ha)					
			単位用水量 計画平均 ($\text{mm}/\text{日}$)	単位用水量 計画代かき (mm)														
支線用水路 ため池 反復揚水機場	農業用水	49.7 49.4	19	150 (12)	39.6 39.5	25	3	10.0	—	—	—	—	—	0.147 ～ 0.107	10	0.119	0.163	

5. 水源計画

(1) 水利用計画

項目 系統名	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源 工種	備考
	a (千m ³)	b (千m ³)	c = a - b (千m ³)	d = c / (1-α) (千m ³)	水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
						e (千m ³)	f (千m ³)	g = c - f (千m ³)	h = d - e (千m ³)		(千m ³)		
支線用水路 ため池 反復揚水機場	1, 110	—	1, 110	1, 256	支線用水路 ため池 反復揚水機場	1, 256	1, 256	—	—	支線用水路 ため池 反復揚水機場	1, 256	支線用水路 ため池 揚水機場	10. 0%
合計	1, 110	—	1, 110	1, 256		1, 256	1, 256	—	—		1, 256		

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量
 基準雨量 最大日雨量121.8mm (1/10確率)
 最大日雨量83.3mm (1/2確率) } 水文統計資料〔第13版〕（新潟県農地部）H26.3◇柏崎観測所による
2. 計画排水方式

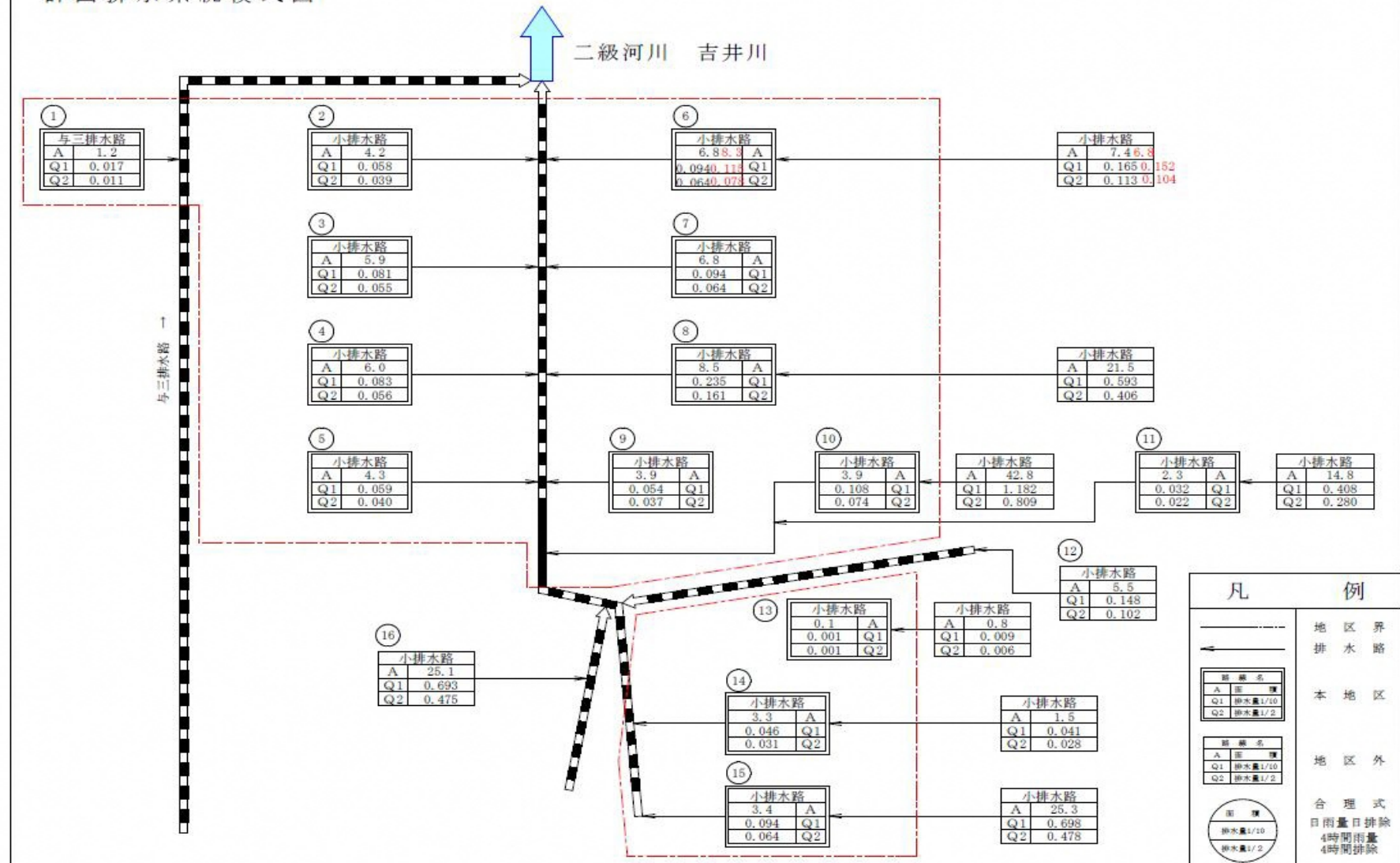
a) 単位排水量の決定

区 分	算 定 方 式	基 準 雨 量	流出率	(1/年確率) 別	雨 量 強 度	算 出 基 準	単 位 排 出 量
小 排 水 路 (水 田)	日 雨 量 日 排 除	121.8 mm/日	80 %	1/10年確率	— mm/hr	121.8×0.80×10/86,400	0.0113 m ³ /s/ha
		83.3 mm/日		1/2年確率	— mm/hr	83.3×0.80×10/86,400	0.0077 m ³ /s/ha
小 排 水 路 (輪 換 田・畑)	4 時 間 雨 量 4 時 間 排 除	121.8 mm/日	40 %	1/10年確率	49.72 mm/4hr	49.72×0.40×10/14,400	0.0138 m ³ /s/ha
		83.3 mm/日		1/2年確率	34.01 mm/4hr	34.01×0.40×10/14,400	0.0094 m ³ /s/ha
小 排 水 路 (宅 地 等)	合 理 式	121.8 mm/日	40 %	1/10年確率	24.86 mm/hr	24.86×0.40×10/3,600	0.0276 m ³ /s/ha
		83.3 mm/日		1/2年確率	17.00 mm/hr	17.00×0.40×10/3,600	0.0189 m ³ /s/ha

3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

計画排水系統模式図



4. 計画排水量

項目 系排水 統名水	受益面積	流域面積 (km ²)		基準 雨量 (mm)	降 雨 に よ る 直接単位流出 量		基底流出量		全 排 水 量 (m3/s)			単位排水量		備 考
		山 地	平 地		山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地		山 地	平 地	
										自然排水	機械排水			
小排水路 ①～⑮	49.7 49.4	1.345	0.213	121.8	2.76	1.13～ 1.38	—	—	5.667	1.955	—	2.76	1.13～ 1.38	

第 4 章 工事又は管理の要領

第 1 節 工事の内容

事業名	工 事 内 容		数 量	備 考
区画整理	整 地 工		49.7 49.4 ha	
	道 路 工	幹 線	— km	
		支 線 他	8.3 km	支線道路6.0m（有効幅員5.0m）
		連 絡 道	— km	
	用水路工	幹 線	— km	
		支 線 他	7.7 km	塩ビ管：φ125～400 FP:鉄筋コンクリート構造
	排水路工	幹 線	— km	
		支 線 他	7.1 km	HF：500×400～1200×1500, BFB:300 塩ビ管：φ200～φ400
	暗 渠 排 水 工		49.7 49.4 ha	有孔管φ75 塩ビ管φ100

第 2 節 管理の要領

1. 管理者

施設名	管理者	備考
用水路、排水路、農道、F P	柏崎土地改良区	

2. 管理方法に関する基本的事項

施設の管理は、柏崎土地改良区が定める維持管理計画書により行う。

第5章 換地計画の要領

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本事業の趣旨を踏まえ、関係農家の農用地の集団化を進め、農業経営の合理化及び近代化を図り、地域農業の発展に資するよう換地計画を樹立するとともに、担い手農家及び農業生産法人への農地集積の必要性の啓発に努め、事業実施に合わせ計画的に農地中間管理機構を活用し農用地の集積・集約化を促進する。

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積

換地区名	換地区の所在	面積
全換地区	柏崎市大字矢田・与三・吉井	59.8 60.6ha

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記地積とする。ただし、換地設計基準確定の日から3か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士が測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合には、その申出のあった地積とする。

2. 用途別予定地積

用途 (取得予定者) 前 後 換地区名		非農用地区域外に換地する土地											非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地				一般 国 公 用 地	総 合 計		
		田	畑	山 林 ・ 原 野	そ の 他	通常事業施行地域に含める土地 (令第1条の9()書き)			計	本事業によって生ずる土地改良施設用地			創 設 農 用 地	合 計	特定用途地			異 種 目 換 地	創設非農用地					合 計	国	県			市 町 村 他	合 計
						土地改良施設	その他	小計		改良区	その他	計			宅地	その他	計		農業経営合理化施設用地	生活上・経営上必要な施設用地	公用・公共用施設用地	宅地等	計							
全換地区	従前の土地	52.5 52.3	0.1	—	—	1.2	—	1.2	53.8 53.6	—	—	—	—	53.8 53.6	—	0.2	0.2	0.1	—	—	—	—	—	0.3	—	—	5.7 6.7	5.7 6.7	—	59.8 60.6
	換地	49.7 49.4	—	—	—	1.2	—	1.2	50.9 50.6	—	—	—	—	50.9 50.6	—	0.2	0.2	0.1	—	—	—	—	—	0.3	—	—	8.6 9.7	8.6 9.7	—	59.8 60.6
合計	従前の土地	52.5 52.3	0.1	—	—	1.2	—	1.2	53.8 53.6	—	—	—	—	53.8 53.6	—	0.2	0.2	0.1	—	—	—	—	—	0.3	—	—	5.7 6.7	5.7 6.7	—	59.8 60.6
	換地	49.7 49.4	—	—	—	1.2	—	1.2	50.9 50.6	—	—	—	—	50.9 50.6	—	0.2	0.2	0.1	—	—	—	—	—	0.3	—	—	8.6 9.7	8.6 9.7	—	59.8 60.6

3. 農用地集団化の方法

区分 換地区	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置選択	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区	1. 集落別集団化 各集落ごとに、その耕作地の集団化を図るものとし、各集落の団地の位置は、各集落の耕作地の集まっていたところを中心に集団化する。 2. 営農グループ別集団化 担い手農家等の育成及び確保を図るとともに、これらを団地化して農用地の集団化を積極的に進める。	各人の従前地（耕作団地）の自然条件、利用条件等を十分に考慮し集団化する。	1戸当たりの団地数は概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔

4. 非農用地の換地方針

区分 換地区	用 途	非農用地位置の概略	面積(㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全換地区	鉄塔敷地	概ね従前地どおり	1,814	特定用途用地換地	東京電力パワーグリッド株式会社	
	農舎・荷捌場施設	柏崎市大字矢田	1,300	異種目換地	従前の土地所有者	

5. 清算の方法

1 評価の方法
標準地比準方式

2 清算の方法
増価額比例地積清算方式

第4節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

(単位：ha)

区分 換地区	機能交換に係る土地				一般国 公有地	合 計
	国有地	県有地	市町村有地	計		
従前の土地	—	—	5.7 6.7	5.7 6.7	—	5.7 6.7
換地	—	—	8.6 9.7	8.6 9.7	—	8.6 9.7

第5節 換地処分の際に関する特則

地区内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分を行うことができるものとする。

第6章 費用の概算

(単位：千円)

事業名等 区分	区画整理	合計	備 考
主 要 工 事	2,086,849 1,643,249	2,086,849 1,643,249	内地方事務費 105,462 50,862 内工事雑費 30,287 27,387
附 帯 工 事	—	—	

(単位：千円)

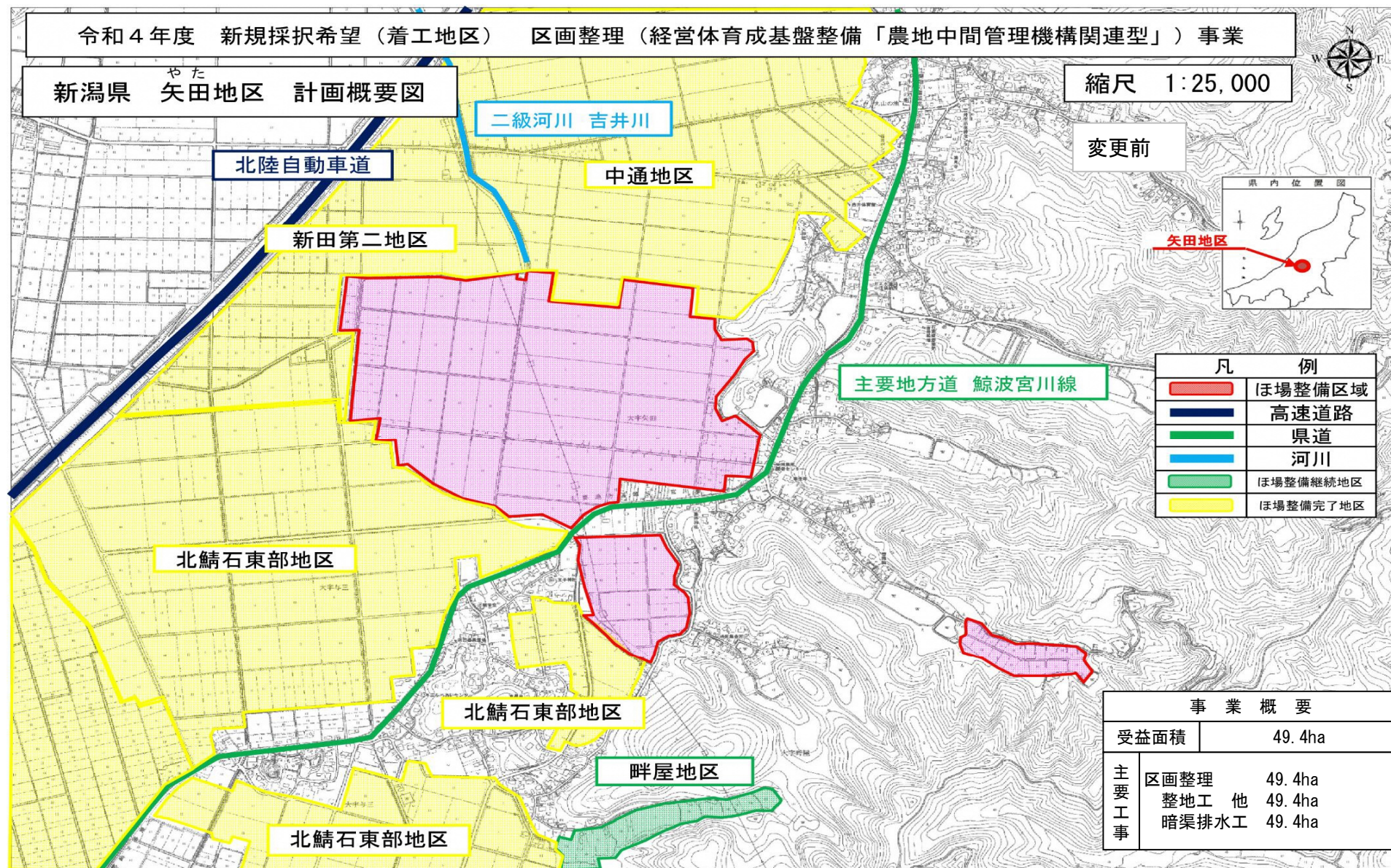
事業名等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地方事務費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	%	%	100%	%	%	%	100%	%	%
	負担金額	1,219,438 978,125	536,552 430,375	195,110 156,500			30,287 27,387				105,462 50,862		
合計	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	%	%	100%	%	%	%	100%	%	%
	負担金額	1,219,438 978,125	536,552 430,375	195,110 156,500			30,287 27,387				105,462 50,862		

第 7 章 効 用

事業名等	項目 区分	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備 考
区 画 整 理	作物生産効果	26,250 26,356	4,143 4,160	総費用（現在価値化） = 3,282,762 3,269,525 千円
	営農経費節減効果	80,790 81,117	84,787 85,130	総便益（現在価値化） = 4,365,676 4,348,072 千円
	維持管理費節減効果	△ 980 △984	717 720	
	耕作放棄防止効果	31	-	総費用総便益比 = $\frac{4,365,676}{4,348,072} = 1.32$
	災害防止効果（農業関係資産）	45,203 45,386	-	$\frac{3,282,762}{3,269,525}$
	農業労働環境改善効果	4,167 4,193	-	
	災害防止効果（一般資産）	45,888 46,074	-	
	災害防止効果（公共資産）	1,476 1,482	-	
	水源かん養効果	10,265 10,307	-	増加所得償還率 = $\frac{-}{89,647} = -\%$
	景観・環境保全効果	691 694	-	
	国産農産物安定供給効果	3,418 3,432		
	計	217,199 218,088	89,647 90,010	
全 体	作物生産効果	26,250 26,356	4,143 4,160	総費用（現在価値化） = 3,282,762 3,269,525 千円
	営農経費節減効果	80,790 81,117	84,787 85,130	総便益（現在価値化） = 4,365,676 4,348,072 千円
	維持管理費節減効果	△ 980 △984	717 720	
	耕作放棄防止効果	31	-	総費用総便益比 = $\frac{4,365,676}{4,348,072} = 1.32$
	災害防止効果（農業関係資産）	45,203 45,386	-	$\frac{3,282,762}{3,269,525}$
	農業労働環境改善効果	4,167 4,193	-	
	災害防止効果（一般資産）	45,888 46,074	-	
	災害防止効果（公共資産）	1,476 1,482	-	
	水源かん養効果	10,265 10,307	-	増加所得償還率 = $\frac{-}{89,647} = -\%$
	景観・環境保全効果	691 694	-	
	国産農産物安定供給効果	3,418 3,432		
	計	217,199 218,088	89,647 90,010	

第8章 他の事業との関係

区分	事業名	事業主体	受益面積	事業内容	備考
効用関連	県営ため池等整備事業 柳沢池地区	新潟県	53.5ha	ため池 1箇所	
効用関連	県営ため池等整備事業 本村大池地区	新潟県	45.8ha	ため池 1箇所	
効用関連	県営ため池等整備事業 矢田地区	新潟県	55.1ha	隧道 690m	



令和4年度 新規採択希望（着工地区） 区画整理（経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」）事業

新潟県 やた 矢田地区 計画概要図

縮尺 1:25,000

変更後

二級河川 吉井川

北陸自動車道

中通地区

新田第二地区

矢田地区



主要地方道 鯨波宮川線

凡 例	
	ほ場整備区域
	高速道路
	県道
	河川
	ほ場整備継続地区
	ほ場整備完了地区

北鯖石東部地区

事業概要	
受益面積	49.7ha
主要工事	区画整理 49.7ha
	整地工 他 49.7ha
	暗渠排水工 49.7ha

北鯖石東部地区

畔屋地区

北鯖石東部地区